〔新撰字鏡〕囈。魚世反、已止、

〔倭名類聚抄三病〕懲　孫愐云、懲子例反　寢言也、今案和名禰古止、

〔箋注倭名類聚抄二病〕按玉篇、懲寐言也、孫氏蓋依之、認文、懲、寐言不慧也、略○中　是條舊○天文本　及山田本、昌平本、曲直瀨本、下總本皆無、獨那波本有之、今錄存、按和名在條末、與本書通例乖、在齡齒下斷上、亦次第失序、是條恐後人所增、伊呂波字類抄不載懲字、類聚名義抄有懲字、不錄和名、知二家所見本無是條也、

〔下學集下態藝〕寐語

〔書言字考節用集八言辭〕寐語事文類聚、睡中語也、　唸同字彙

〔名物六帖人事四體勢作用〕寐語王君玉雜纂、難理會醉漢寐語、　唸囈正字通、唸音菴、語含口也、囈寐語不成句也、　囈語拾異記、呂蒙囈語通周易、

〔倭訓栞前編二十二〕ねごと○中略　思ふ事を寐言といふ諺あり、異聞錄に、韓昭侯と棠溪公と事を謀るに、夜必ず獨寢る事を勤む、寐言して妻妾に漏む事を慮りてなりと見えたり、

〔榮花物語五浦々の別〕このきたのかた○藤原伊周母はしづみいり給ひて、いとたのもしげなくなりまさらせ給ふ、たゞよとともの御事には、との○伊周にたいめむして、しなん〳〵とぞ、ねごとにもし給、

〔言志錄〕昏睡發囈語、足見心之不存、

〔類聚名義抄七宀〕寤音悟サム　〔同七穴〕寤サム

〔書言字考節用集九言辭〕覺韵會、夢醒也、寤同

〔釋名三釋姿容〕覺告也

寤忤也、能與物相接忤地、

〔日本書紀六垂仁〕五年十月己卯朔、天皇幸來目居於高宮、時天皇枕皇后膝而晝寢、略○中　天皇則寤之、語皇后曰、略○下